

専任教員教育研究業績

平成 29 年 5 月 30 日

氏名	ふりがな	所属学科	職 位	性別
上野 奈初美	うえの なうみ	保育学科	学科長 教授 准教授・講師・助教	男 (女)
担 当 科 目 名			学 内 委 員 会 等 (委 員 長)	
身体表現Ⅱ、表現指導法、ゼミナール			自己点検・評価委員会委員長 (ALO)	

学 歴

和暦 (西暦) 年 月	事 項	学位
昭和 56 (1981) 年 3 月	東京女子体育大学体育学部体育学科卒業	体育学士
平成 11 (1999) 年 3 月	大阪教育大学大学院教育学研究科実践学校教育専攻修士課程修了	修士 (教育学)

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容
大手前女子大学文学部助手	昭和 58 年 4 月～昭和 62 年 3 月	「保健体育」担当
大阪成蹊 (旧大阪成蹊女子) 短期大学児童教育学科 幼児教育学専攻専任講師	昭和 62 年 4 月～平成 7 年 3 月	「体育Ⅰ・Ⅱ」、「教科・保育内容演習」担当
同 助教授	平成 7 年 4 月～平成 14 年 3 月	「体育Ⅰ・Ⅱ」、「教科教育法」、「健康」、 「教科・保育内容演習」担当
同 教授	平成 14 年 4 月～平成 26 年 3 月	「健康」、「幼児体育」、「専門演習」、「実習事前事後指導」担当
小田原短期大学保育学科 教授	平成 26 年 4 月～現在	「身体表現Ⅰ・Ⅱ」、「表現指導法」、「保育実習指導Ⅰ」、 「ゼミナール」担当

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)
日本体育学会	昭和 58 年 4 月～現在	大会参加・発表
日本学校保健学会	平成 3 年 4 月～現在	大会参加・発表
近畿学校保健学会	平成 3 年 4 月～現在	大会参加・発表、評議員
日本保育学会	平成 18 年 4 月～現在	大会参加・発表
日本教育心理学会	平成 19 年 4 月～現在	大会参加・発表

社 会 活 動

名 称	活動期間	活 動 内 容
河合美智子モダンダンスア ート	平成 19 年～現在	幼児から成人までの身体表現活動を研究
平成 21 年度教員免許状更 新講習「幼稚園教諭」	平成 21 年	幼稚園教諭を対象に「健康」、「体育」を担当
発育表現アドバイザー資格 認定講座	平成 21 年～平成 22 年	認定講座テキスト執筆および講習会指導「身体表現」を担当
平成 24 年度全国保育士養 成セミナー・研究大会実行 委員	平成 24 年	第 12 分科会「保育士養成校教員に求められるもの」の企画、司 会および運営全般を担当

真鶴町立幼稚園園内研修 講師	平成27年10月	テーマ「3～5歳までの発達と保育」 教職員、園児および保護者対象の園内研修で講演と実践を担当		
担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
中学校教諭一級普通免許状 (保健体育)	昭和56年3月	東京都教育委員会(4803号)		
高等学校教諭二級普通免許状 (保健体育)	昭和56年3月	東京都教育委員会(4845号)		
レクリエーション・インストラクター	平成17年4月	(財)日本レクリエーション協会		
福祉レクリエーション・ワーカー	平成24年9月	(財)日本レクリエーション協会		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 保育入門テキスト	共著	平成27年3月	萌文書林	幼児期の「運動あそび」について解説。保育を志す高校生向けに執筆。Chapter3(14～18頁)
2. 保育士のための基礎知識 (2017年度版)	共著	平成27年8月	大阪教育図書	「保育表現技術(身体表現)」の展開方法について実践例を取り上げ解説。第10章(332～340頁)
3. 幼稚園・幼保連携型認定子ども園 専門教養の要点と問題 (2017年度版)	共著	平成28年6月	大阪教育図書	幼稚園教諭を目指す学生向けに領域「健康」について要点を解説。第2章(63～102頁)
(学術論文) 1. 短大生のメンタルヘルスに関する 探索的研究 -2つの学科の比較-	共著	平成24年3月	大阪成蹊短期大学研究 紀要第9号	2つの学科に属する短大生を対象にメンタルヘルスに関する調査を行った。目的々学科に属する学生ほど「生きがい度」が高い傾向にあることが分かった。また、ストレスを抱えている学生ほど「生きがい度」が低いことが分かった。
2. 女子大学生の生活習慣に関する一 考察	共著	平成25年2月	人間関係研究14 大妻女子大学	質問紙を用いて女子大生の健康習慣について調査を実施し学年別の比較を行った。健康習慣における「規則性」については学年と共に低下傾向があることが明らかとなった。
3. 保育専攻学生の精神的健康度 -学習不適応学生の分析からの一考察-	共著	平成25年3月	大阪成蹊短期大学研究 紀要第10号	保育専攻学生を対象に学習不適応学生を抽出し、精神的健康度の調査結果および生活習慣に関する自己評価記述をもとに分析を行った。複数のストレスを抱えている学生を早期に発見し、入学直後からの個別指導が不可欠であることが分かった。
4. 大学生の健康度と生活習慣 -保育・看護・一般学生-	共著	平成27年3月	小田原短期大学研究 紀要第45号	保育、看護といった資格取得を目指す学生を対象に調査を行った。保育学生は「運動行動」が有意に低く、看護学生は「休息」が有意に低かった。保育学生には運動行動を促すような働きかけが必要なことが分かった。
5. 看護系大学生の生活習慣とストレス・生きがいにつ	単著	平成28年3月	小田原短期大学研究 紀要第46号	看護系大学の学生を対象に生活習慣タイプ別におけるストレスと生きがいとの関連性について検討を行った。生活習慣が好ましいタイプはそれ以外のタイプと比較して、満足感や

<p>いての検討 -統計的な報告-</p> <p>6.自己実現を含めた総合的健康の自己評価ツール -ヘルスプロモーションに活用するための統計的検討-</p>	共著	平成 29 年 3 月	奈良学園大学紀要 第 6 集	<p>挑戦課題を持ち続けて生活している傾向が強いことが分かった。</p> <p>短期大学生 1,940 名の健康自己評価データを統計的に検討し、同様に高校生男女、女子大生、中高年女性の調査結果を比較資料として考察を行った。本研究の統計学的検討によって得られたデータや知見は、ヘルスプロモーションや自己実現をふまえた健康学習の教材として学習者が利用しやすい有用な資料となることが示唆された。</p>
<p>(報告書)</p> <p>1.全国保育士養成 セミナー報告書</p>	共著	平成 25 年 3 月	保育士養成資料集 第 57 号 (社)全国保育士養成 協議会	<p>平成 24 年開催の保育士養成セミナー分科会「新任教員の課題 -保育士養成校教員に求められるもの-」の討論内容についてまとめた。</p>
<p>(口頭発表)</p> <p>1.「保育・教職実践 演習」平成23年度 実践報告と検討</p> <p>2.自己評価からみ た実習指導の課題</p> <p>3.資格取得を目指 す学生の精神的健 康度 -保育・看護・スポ ーツ専攻生の場合-</p> <p>4.「保育表現技術 (身体表現)」科 目の授業内容につ いて -シラバス 分析を通して-</p> <p>5.看護学生の生活 習慣とストレス・ 生きがいについて の考察</p> <p>6.表現の授業内容 について</p> <p>7.実習生が体験し たヒヤリハット</p>	<p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>単独</p> <p>共同</p> <p>単独</p> <p>共同</p>	<p>平成 24 年 11 月</p> <p>平成 25 年 9 月</p> <p>平成 26 年 11 月</p> <p>平成 27 年 9 月</p> <p>平成 27 年 11 月</p> <p>平成 28 年 8 月</p> <p>平成 28 年 11 月</p>	<p>日本教育心理学会 第 54 回総会 琉球大学</p> <p>全国保育士養成協議会 第 52 回研究大会 カポートル高松</p> <p>日本教育心理学会 第 56 回総会 神戸国際会議場</p> <p>全国保育士養成協議会 第 54 回研究大会 ロト札幌</p> <p>第 62 回日本学校保健 学会 岡山ロバンソンセンター</p> <p>全国保育士養成協議会 第 55 回研究大会 盛岡市民文化ホール</p> <p>日本学校保健学会第 63 回学術大会 筑波大学</p>	<p>平成 23 年度より開講した「保育・教職実践演習」の授業内容についてのまとめと今後の課題について報告した。</p> <p>1 回目の実習終了後に実施した学生の自己評価結果から「保育課程や指導計画」についての理解を深める、「最善の利益を具体化する方策や倫理観」を確かなものとする、子どもを介在として「保育者、保護者、地域社会と関わる場面をつくる」ことが今後の実習指導の課題として明らかとなった。</p> <p>資格取得を目指す学生を対象に精神的健康度調査を実施した。「注意散漫」といったストレス項目は看護学生が有意に高かった。また、満足感や精神的ゆとりも看護学生が低いことが分かった。</p> <p>保育者養成校における教科目「身体表現」の授業内容について加盟校を対象にシラバス分析を行った。多くの短大では基礎・基本から応用・発展といった積み上げ方式の授業を展開していることが分かった。</p> <p>看護学生を対象に生活習慣とストレスに関する調査を行った。「生活満足」や「生活意欲」といった生きがいを持っている学生ほど、生活習慣が良好であることが分かった。</p> <p>保育士養成校に加盟している短期大学を対象に教科目「表現」でどのような授業展開がなされているのか分析を行った。その結果、他の表現系科目との関連性、「表現」としての独自性の確立等さらに検討していくことが必要と考えられた。</p> <p>実習中に学生が体験した様々な危険=「ヒヤリハット」について場所、時間帯、活動内容等についてアンケート調査を実施した。その結果、廊下でのつまずきや砂場での危険が多いこと、また各実習園における安全管理のあり方の違い等が分かった。</p>
<p>その他 (表彰等)</p>				

